

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

社会に進出するにつれ、A I はさまざまな分野で人間を超えていく。その時、A I の出した答えを分かりやすく人々に伝える専門家がどの分野でも必要になっていくはずです。

そして将棋界では、将棋A I を道具として活用していく動きも生まれています。将棋A I の評価値^(注)を練習に活用する棋士が増えているのです。評価値には賛否両論ありますが、人間の棋士よりも強いと考えられる将棋A I の評価を鍛錬に活用することは理にかなっているとも言えるでしょう。

将棋A I によって新しい強さを身につけようとする棋士は、いち早く将棋A I への恐怖心を捨て、自らを高める道具として活用しています。

人間とは不思議なもので、自らの力量を圧倒的に凌駕^{りょうが}されてしまうと、急に「便利な道具だ」と感じるようになるものなのです。たとえば漢字変換では、ほぼすべての日本人がスマートフォンに負けます。「鬱」という漢字は手で書くのは大変難しいけれど、スマートフォンなら誰でも普通に使います。「うつ」で変換すると「鬱」と漢字にしてくれる。日常生活で鬱を漢字変換するたび「ぼ……僕は書けないのに！ スマートフォンすごいな」なんて憂鬱になっていたら、ちょっとその人は心配ですよ。一般的には「便利だ」としか思わないものです。

将棋A I を味方につけ、大きな栄光を手にした最たる例が、藤井聡太です。結果的に藤井は29連勝し、歴代連勝記録の単独トップに立ったことを、羽生善治も「歴史的快挙」と評しました。

たしかに藤井は傑出した才能に恵まれた棋士です。5歳ほどで480ページある将棋の教科書をマスターし、小学生のころは詰将棋で無類の強さを誇っていたとされています。そしてその才能を絶えず磨き、14歳2カ月で史上最年少のプロ棋士としてデビューしました。

しかし彼の強さのもうひとつの側面には、彼が将棋A I を駆使して練習を積んできたという、先取の才覚もあるのかもしれませんが。藤井は将棋A I の評価値を見ながら将棋の研究を重ねることで、A I がなくても評価値を判断できるようにする学習をしてきたと聞きます。つまり彼はA I のように局面を見ている人間の棋士なのです。

藤井の鍛錬は、そのまま彼の棋風に表れていると言えるでしょう。①藤井を評す多くの人が、彼の強さに「隙のなさ」「踏み込みの鋭さ」をあげています。これらは将棋A I と対局した多くの棋士が持つ感想「肉を切らせて骨を断つ」に通ずるものがあります。

将棋というものは、お互いの大将である「王将」を取り合うゲームです。将棋にはさまざまな戦法がありますが、それらには人間らしい心理が反映されています。

王将を取られては負けてしまいます。その恐怖心から、人間はまず、王将をしっかりと守ることを優先します。そのため将棋には「美濃囲い」「穴熊囲い」「矢倉囲い」といった、守備のための陣形「囲い」という確立された戦法があります。これらで王将を守ってから、敵

将を討ちにいく、というのが人間の基本的な心理であり戦法になります。

しかしA Iは人間のような恐怖心を持っていないため、王将を守ることなく、チャンスがあれば敵将を討ちにいこうと考えます。これが人間の棋士には「踏み込みの鋭さ」として感じられます。

それに加え、膨大な量の棋譜を学習している将棋A Iは、局面におけるすべての駒の“間合い”を深く精緻に把握しています。つまり、どのような攻撃がどの程度のダメージになるかが非常に高い精度で分かっているわけです。であれば、相手に致命傷を与えるためには、多少の傷を負うことを厭^{いと}わないという戦法もとることができます。これが人間の棋士には「隙のなさ」や「肉を切らせて骨を断つ」戦い方に感じられるわけです。

そして藤井はこれらの戦法を身につけようとし、歴史的快挙を成し遂げたのです。これはいわば、A Iと人間が共進化して生み出した高い創造性と言えるでしょう。ちなみに、藤井の指し手は、A Iとの一致率が高いと指摘されています。

彼のような存在、②A Iを恐れることなく共進化しようとする人間を、A Iを受け入れる抵抗感の少なさから、私は「A Iネイティブ」と呼んでいます。今では、小学生で将棋ソフトを使いこなして戦っている人もいると聞きます。さらにはあらゆる仕事におけるA Iと人間の共存は、最先端のA Iをいかにうまく使いこなせるかにかかっていると言っても過言ではないはずです。

(注) 将棋や囲碁で、A Iによる形勢判断が数値で表されたもの。

(松原仁『A Iに心は宿るのか』集英社インターナショナル、2018年。なお、原文の一部を変更している。)

【設問1】

下線部①はどのようなことを述べているのか、本文に即して説明しなさい。(200字以内)

【設問2】

下線部②「A Iを恐れることなく共進化しようとする人間」とあるが、これはどのような人間か、藤井聡太を例に説明せよ。(200字以内)

【設問3】

A Iとの共存についての筆者の考えに対し、あなたはどうか考えるか。具体的なA Iの活用の事例や指摘されている問題点を挙げながら、意見を述べなさい。(800字以内)